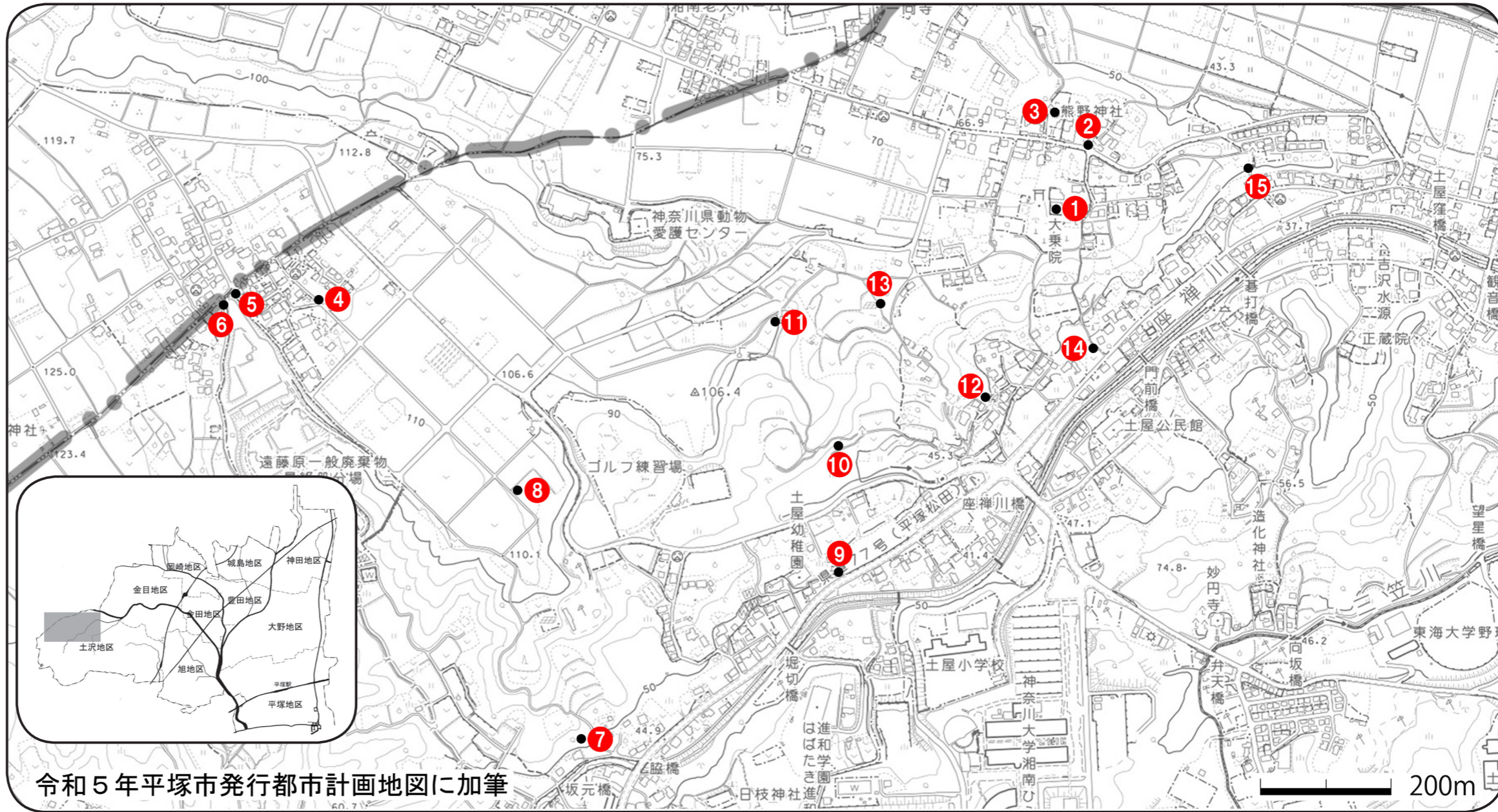


平塚の石仏めぐり

23. 土屋（庶子分）編



遠藤原路傍 大山灯籠



令和5年平塚市発行都市計画地図に加筆

土屋（庶子分）の石仏

土屋地区は、市の西北部に位置した大磯丘陵東部の標高70～150m前後の平坦面を持つ台地です。東西約3.6km、南北に約3.2kmの方形状の区域で、市の約10分の1を占める最も広い面積を有しています。

天保年間に編纂された『新編相模國風土記稿』に、小名として庶子分、惣領分が挙げられています。鎌倉時代に土屋宗遠が地頭職となり、『建永式目』（1206）により、寺分、庶子分、惣領分に分割されました。庶子分は、養子の次郎義清（岡崎義実の次男）の所領となりました。

庶子分は、県道77号線に沿って東西に細長い地域で、土屋地区の北部に位置し、小熊、遠藤原の集落も含まれます。

庶子分には70基の石造物があります。造立年代が判る石造物は53基で、江戸時代に造立されたものが約40%、その他は明治時代以降に造立された石造物です。最も古い石造物は、旧土屋小学校跡にある五輪塔（慶安2年（1649））です。

この地区の石造物の内訳は、道祖神が11基、庚申塔が6基、地藏、観音が各々5基などとなっています。

石造物が多くある大乘院には、明治以降の石造物が多い一方、市内で唯一の文殊菩薩像が、また土屋地区以外では確認されない「牛頭観音」があります。熊野神社にも明治以降の石造物が多く、水呑地藏境内には江戸時代の庚申塔が多くあります。新旧含む石造物が皆様をお迎えしています。

土屋（庶子分）の石仏所在地と主な石仏

番号	名称	住所	主な石仏
1	大乘院	土屋 200	石坂供養塔、文殊菩薩、徳本名号塔、灯籠、阿弥陀如来・念仏供養塔、牛頭観音他
2	小熊路傍	土屋 225	道祖神、観音、石幢型六地藏
3	熊野神社	土屋 227	狛犬、浅間大神、石祠他
4	遠藤原路傍	土屋 531	灯籠
5	遠藤原路傍	土屋 584	道祖神
6	遠藤原路傍	土屋 612-2	地藏・念仏供養塔
7	上庶子分地藏堂跡	土屋 800	道祖神、廻国塔
8	遠藤原路傍	土屋 866	供養塔
9	旧土屋小学校横	土屋 1009	道祖神、五輪塔
10	中庶子分路傍	土屋 1053 付近	水神
11	中庶子分路傍	土屋 1058 付近	浅間大神
12	中庶子分路傍	土屋 1152	道祖神
13	水呑地藏	土屋 1159	地藏、馬頭観音、庚申塔多数、巡拝塔・道標他
14	下庶子分屋敷内	土屋 1181	地藏、地藏・念仏供養塔、観音
15	下庶子分路傍	土屋 1206-8	道祖神

※ 当ガイドマップに記載されている石仏の基数は令和3年集計時点のものです。

石仏豆知識 18. 水神

水は生命、生活、農業にとって欠かすことのできないものであり古くから大切にされてきました。またその一方で、川の氾濫・洪水は人々を苦しめました。水・水源への感謝、氾濫・洪水除け祈願のため、水神様が祀られました。川の土手、用水の取水口、湧水池、池など水にまつわる場所に建立されています。その形態は石祠に御札を納めるか、自然石に文字を刻むのがほとんどです。平塚市内には27基の水神があり、そのうち土屋には2基、ともに文字塔です。

水神以外にも、水にまつわる石仏があります。弁才天は水に関わる農業の神です。また、水の口から流れ出るとする信仰があり、蛇は水神の使いと考えられていました。宇賀神は人頭蛇身で弁才天の化身とされる神、土屋の妙円寺にも見られます。また不動明王は、様々な面を持ち合わせているため水辺にだけ多い訳ではありませんが、修験者が滝に打たれて修行する際、その山岳信仰と結び付いた仏教（密教：最高神・大日如来の身代わりである不動明王）を感得すべく、滝に祀られるようにもなりました。吉沢の霧降りの滝にも見られます。

石仏めぐりを行う場合の心掛け

石仏は、古来より多くの人々がさまざまな願いをこめて手を合わせ祈ってきたものです。今でも信仰の対象とされているものも数多くありますので、見学に当たっては、敬いの心を持って接しましょう。

また、お寺や神社など石仏の管理者がいらっしゃる場合は、石仏を見学する旨一声かけてから見学しましょう。

平塚の石仏めぐり(23.土屋(庶子分)編)
発行日: 令和7年1月
編集: 石仏を調べる会
発行: 平塚市博物館
住所: 神奈川県平塚市浅間町12-41
電話: 0463-33-5111

大乘院の石仏 (地図番号①)

大乘院は天台宗の寺院で、星光山弘宣寺と号し、天台宗の相模総本山と称された古刹です。創建年代は不明ですが、土屋宗遠により再建されました。

文殊菩薩 山門手前左側に、右手に剣、左手に経巻を持ち、獅子に座した自然石に彫られた文殊菩薩半跏像があります。文殊菩薩は優れた智慧の持ち主で、経巻は智慧の象徴、剣はその智慧が鋭く研ぎ澄まされていることを表します。

市内では唯一の文殊菩薩像で、平成18年(2006)に先祖代々供養のために、個人が造立しました。高さ127cmの堂々とした石仏で、深掘りされた像が浮き上がって見えるなどの工夫がなされています。

徳本名号塔 山門を入り左手に高さ328cmの徳本名号塔があります。塔右面には「徳本上人壹百回忌供養」のため大正3年(1914)に建立された刻まれています。台座正面には「西組講中」とあります。

徳本上人の教えは大会念仏として受け継がれ、旧中郡のほぼ全域を西組・東組・仲組に分けて、西組講中は南金目の光明寺から秦野まで回り、土屋の大乘院を終い念仏としていました。このため台座の各面には土屋、秦野方面の念仏講や発起人の名が刻まれています。

阿弥陀如来念仏供養塔 墓地内にある高さ約80cmの台石の上に阿弥陀如来が祀られたこの塔は、延享4年(1747)に造立されました。

像台石正面に「梵字【𑖀𑖅𑖟𑖫】常念佛二万日回向供養塔」(寛保2年(1742)銘)と刻まれた念仏供養塔です。また、像台石の左右の面には、「大乘妙典一千部供養」(延享4年(1747)銘)、「仁王經三千部供養」、「薬師經五千部供養」と刻まれ、各種經典供養の目的も含まれています。

牛頭観音 墓地内にある「当山寺族の墓」区画の左隅に、「牛頭観世音」と刻まれた高さ47cmの櫛型の塔があります。馬頭観音同様に牛の供養のために造立されました。

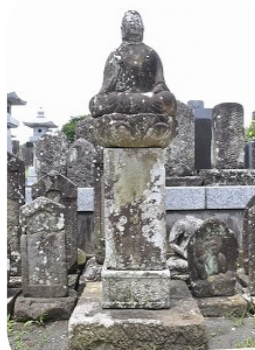
市内では土屋地区にのみ3基あり、いずれも昭和年代の造立で、この塔は最も古く昭和10年(1935)の銘があります。牛による畜耕が主流になった事、大正期から酪農が行われていた事が影響していると考えられます。



文殊菩薩 (平成18年)



徳本名号塔 (大正3年)



阿弥陀如来念仏供養塔 (延享4年)



牛頭観音 (昭和10年)

小熊路傍の石仏群 (地図番号②)

大乘院へ入る小熊路傍の一角に、小熊地区で祀る4体の道祖神と石幢型六地藏、観音などが建っています。

道祖神は最近まで道を挟んだ隣にありましたが、令和6年現在地に移設されました。

道祖神 3体は上部が欠損しており、造立年代も不詳ですが、左奥の道祖神は高さ78cmで「明治三十五年一月建」(1902)の銘があります。

仲睦まじく肩を抱き合う神像で、天孫降臨神話に出てくる道案内役の猿田彦と、天鈿女を表すとみられています。

石幢型六地藏 六地藏は一石の六面に、それぞれ合掌した6体の地藏が彫られています。

重制石幢の幢身が失われ、龕部などが残ったものと考えられます。

銘文は不明ですが、『土屋郷土誌』によれば、「□月□境居士霊位 明和丙戌年八月六日」(1766)の銘があったようです。背後に同じ銘文を刻む観音があります。



双体道祖神 (明治35年)



六地藏 (年代不詳)

熊野神社の浅間大神 (地図番号③)

熊野神社の一角に、自然石に富士山を神格化した尊称である「浅間大神」、「祈國威發揚」と大きく彫られた昭和9年(1934)造立の碑が建っています。

元は鉄砲馬場と呼ばれた台地の西側にあった相馬神社に建てられていたもので、相馬神社の石祠と共に平成11年(1999)に移設されたものです。

造立当時は富士山を望める場所にあり、また、時代背景から國威發揚が叫ばれていたものと推察されます。



浅間大神 (昭和9年)

遠藤原の寒念仏供養塔 (地図番号④)

遠藤原から中井町へ抜ける路傍の一角に、享保元年(1716)造立の総高104cmの地藏が建てられています。

台石正面には「奉造立寒念佛供養所」とあり、真冬の厳しい寒さの中で念仏供養が行われたことが偲べれます。また、左面には延命地藏經にある「毎日晨朝 入於諸定・・・」の偈頌が、右面には法華經卷三にある「汝等諸行 是菩薩道・・・」の偈頌がそれぞれ彫られています。



地藏念仏供養塔 (享保元年)

旧土屋小学校横の道祖神場 (地図番号⑤)

中庶子分の道祖神場で、中央は平成3年(1991)に建て替えられた道祖神、右奥は年代不詳で上部が欠けていますが、正面右に「[] 土屋村」銘のある双体道祖神です。

左側は慶安2年(1649)に建てられた五輪塔で、水輪正面に「[]」地輪正面に「[]」その下に「慶[安]二〇己[丑]」の銘があり、土屋地区で最も古い石造物です。



左 五輪塔 (慶安2年)、中央 文字道祖神 (平成3年)、右 双体道祖神 (年代不詳)

中庶子分路傍の源水の水神 (地図番号⑥)

旧神奈川大学近くの交差点から中井町へぬける道路を少し上がり右へ入った、前に棚田の広がる所に「源水の水神」があります。

水神は水に関する神の総称で市内に27基あります。

正面に「水神」、左右に「九月吉日建之」、「昭和二十五年」(1950)とあり、簡易水道及び水田用水の水源地が枯れぬように祈願して建てられたものです。



水神 (昭和25年)

庶子分バス停裏の岩船地藏他 (地図番号⑦)

庶子分バス停を入ってすぐ三体の石仏が並んで祀られています。ここはかつてあった宗憲寺の寺域とされています。

岩船地藏 真ん中に立つ地藏は享保5年(1720)に造立され、蓮華座の左右が舟の舳先と艫を模した珍しいもので、碑正面に「岩船念佛供養・・・」とあり地元の人々には子育て地藏や門前地藏と呼ばれています。

岩船地藏は市内に4基あり、いずれも享保5年(1720)に造立されています。また中原大松寺にも舟に乗った享保5年造立の地藏がありますが、同じく岩船地藏と思われます。

聖観音 右側にはおだやかな顔の観音様が左手に未敷蓮華を持ち右手を添えた姿で蓮華座の上に立っています。

基礎石左側面に「寛政九丁巳歳 七月吉日」(1797)、右側面に「相蒔土屋村庶子分 箕嶋施主 善海 妙海」とあります。左側の地藏は同じ寛政9年(1797)に建てられています。



左 地藏 (寛政9年)、中央 岩船地藏 (享保5年)、右 聖観音 (寛政9年)

水呑地藏の石仏 (地図番号⑧)

大乘院から南西数百mの場所に、「里山をよみがえらせる会 里山駐車場」があり、その北側に木立で囲まれた中に水呑地藏があります。

地藏 この地には鎌倉時代、牢屋、処刑場、さらし首場がありました。処刑前の罪人に最後の水を吞ませた所と言われています。その供養のため地藏が祀られ、水呑地藏と呼ばれました。

その地に新たに建てられたお堂に子供を抱いた地藏(造立年不明)が安置されています。また、付近一帯にあった石仏20基余りも集められ、立ち木で囲われた敷地に整然と並べられています。

庚申塔 地藏堂の周りには6基の庚申塔が置かれています。一か所で見られる庚申塔の数としては市内で最も多い場所です。銘文不明の1基を除き1680年から1788年の造立です。その中の3基を紹介します。

庚申塔1 (享保21年(1736)造立)：敷地中央の地藏堂に向かって左奥隅に置かれています。六臂青面金剛、三猿、なお笠部は欠損。本体に大きな亀裂があるものの、全体に彫りが深く像容はしっかりと残っています。

庚申塔2 (享保16年(1731)造立)：上記の庚申塔の右に置かれています。損傷は少なく立派な笠も残っています。六臂青面金剛は大きな邪鬼を踏み、その下に不聞猿、二鶏があります。また両側面に日月、不見猿、不言猿があります。

庚申塔3 (延宝8年(1680)造立)：地藏堂の向かって右奥に置かれています。正面に庚申年の紀年銘などの文字、下部に不聞猿、向かって右面に不言猿、左面に不見猿があります。



庚申塔1 (享保21年) 庚申塔2 (享保16年) 庚申塔3 (延宝8年)

巡拝塔道標 元治元年(1864)造立の巡拝塔兼道標です。地藏堂に向かって右側、六地藏の隣にあります。よく見掛ける西国・坂東・秩父の百番観音巡礼に、四国八十八ヶ所、大峯山・富士山・立山への参拝まで掲げた巡拝塔です。市内には51基(うち土屋には11基)の巡拝塔がありますが、この三山霊場を刻むものは市内唯一です。塔左面には「かないいゝつミミち」とあり、金目観音や飯泉観音への道標も兼ねています。



巡拝塔道標 (元治元年)